

「災害時連絡方法の手引き」 「こども手帳」寄贈式

7月13日(水)、(公財)日本公衆電話会高知支部より「災害時連絡方法の手引き」と「こども手帳」が寄贈され、役場本庁および田ノ口小学校で寄贈式が行われました。

「災害時連絡方法の手引き」には、「災害用伝言ダイヤル171」の使い方などが掲載されており、町情報防災課へ500冊が寄贈されました。また、「こども手帳」には、自分の体や命を守る方法など子どもたちの将来に役立つ情報が掲載されており、町内各小学校4年生以上の児童へ寄贈されました。寄贈式が行われた田ノ口小学校では、式に参加した5、6年生が「災害用伝言ダイヤル171」の体験を行いました。



災害用伝言ダイヤル171の体験をする児童

同校6年生の森岡美結^{みゆ}さんは、「171のことを詳しくは知らなかった。家族やみんなと話し合ひ、もっと知りたい」と話しました。

大方ホエールウォッチングと土佐清水 海上保安署が海難救助訓練実施

7月14日(木)、入野漁港で大方ホエールウォッチング事務局と土佐清水海上保安署が海難救助訓練を実施しました。

同訓練は、事故発生時の対応能力強化と救命率向上、事故防止に関する意識高揚を図ることを目的として行われ、ホエールウォッチングのガイドや土佐清水海上保安署の職員など約20人が参加しました。参加者は、海上保安署の職員から事故発生時の海上保安署への情報伝達、救命胴衣の使用方法などの講習を受けた後、救命胴衣を着用して海に入ったり、落水者の救助手法を学びました。



落水者救助訓練の様子

「知らないことばかりだったため、参加して良かった。ホエールウォッチングに来たお客さんには落ちないよう呼びかけながらも、万が一の心がまえをしていきたい」と話しました。

まほろば Vol.18 くろしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



黒潮消防署・副署長
渡辺 公博さん

幼いころから見守り支えてくれた町の皆さんに恩返しをしたいと平成5年から消防士として働く渡辺さん。救急救命士としても活躍し、副署長になった現在は、現場で活動する職員の心のケアや、救急救命士の育成にも力を入れています。地域の人々を守るため、日々尽力する渡辺さんに思いを聞きました。

渡辺さんの経歴を 教えてください

黒潮町佐賀の出身で、小学校3年生からサッカーをしており、全国大会出場をめざして高校では高知市内の学校に進学しました。卒業を前に、「サッカーを教えてもらったり、応援してもらったりと、自分の支援をしてくれた地域の方に恩返ししたい」と思い始めました。そんな時に、消防団にいた従兄弟から、「幡東消防署で10年振りに採用試験が行われることになった」と聞き、消防署なら恩返しができると思い試験を受け、平成5年度に幡東消防署の消防士となりました。平成21年には、救急隊員にはできない「救急救命処置」と呼ばれる救急医療特定行為を行うことができる「救急救命士」の資格を取得しました。



訓練の様子

今後の課題は?

南海トラフ地震が起きた時に、消防署がどう



職場体験中の中学生と話をする渡辺さん

南海トラフ地震が起きた時に、消防署がどう

町の皆さんへメッセージを お願いします。

これまで機能するのかもしれないことですね。国道が海岸沿いを通っているのが、消防署からの救助が難しくなるのではないかと考えています。そのなかで私たちにどのような活動ができるのか、将来起きると予想されている南海トラフ地震に備えています。

9月の防災訓練は、仕事の都合などで参加できない方もいらっしゃると思います。避難行動などはできないかもしれませんが、サイレンが鳴った時にはどんな形でも良いので参加してもらえればと思います。